

森川商事株式会社

◎ 一般公衆浴場業



高齢者が集うまちの銭湯が、外国人客の取り込みにも挑戦

阪急淡路駅前商店街のアーケードの途中を曲がると、マンションの1階にある昭和湯が見えてくる。名前の通り、昭和を感じる大阪下町の銭湯だ。一人暮らしの高齢者の生活を支える一方、新たにゲストハウスと連携した外国人客の取り込みも始まった。日本の下町、銭湯文化を伝え、地元住民と外国人の交流の「湯」を作り出している。

銭湯の役割が公衆衛生維持から高齢者支援に

創業昭和3年。今年で88周年を迎える昭和湯を切り盛りするのは四代目の森川さんだ。10年前にサラリーマンを辞めて家業を継いだ。ここ大阪市東淀川区も時代とともに銭湯の数が減少している。森川商事もかつては区内に5店の銭湯を経営していたが、現在は昭和湯だけだ。その昭和湯も最盛期には、1日300名を超えていた利用者数が、現在は150名から170名位と半減している。ここ数年の売上は横ばいだが、その要因は、周辺の銭湯の廃業が進み、その客が昭和湯に流れているという消極的なものではないかと森川さんは感じている。

しかし、手をこまねいているだけではない。若き四代目は時代に合わせた銭湯の姿を模索し

ている。まちの高齢化が進む中、顧客の約7割が65歳以上の高齢者だが、彼らからの要望が多かった朝風呂を始めた。営業日は毎週土曜日。近隣の銭湯が日曜日に朝風呂をしていることから、土日とも朝風呂が楽しめるという相乗効果を狙ったものだ。営業時間は朝7時から9時半までの2時間半だが、早起きのお年寄りには好評だ。最近では、朝風呂だけの顧客も増えているという。

時代とともに銭湯の役割が、公衆衛生向上から高齢者支援にシフトしていると森川さんは言う。

「ご主人が生きていたときは毎日、風呂を沸かしていたけど、一人だともったいないし危険だからと、週2～3日ここに来て入浴される高齢女性のお客さんも多いです」銭湯が地域の高齢者をゆるやかに見守っている。

高齢化するまちから銭湯文化を発信 ゲストハウスとのコラボで外国人客獲得へ

若い世代に向けたイベントPRとSNSを活用した情報発信

近隣の高齢者だけでなく、幅広い世代をターゲットにするため若い世代に向けた銭湯文化のPRも積極的だ。あひる風呂は、2000匹のおもちゃのアヒルを湯船に浮かべるイベントで、「親子がお風呂でゆっくりふれあえる時間をつくりたかった」と語る森川さん。予想以上に高齢者



にも好評で、今度は孫と来たいという声も多く聞かれている。

このような若い世代向けのイベントの告知にはFacebookを積極的に活用することにした。定期的な情報発信が重要と考え、少なくとも月に数回の投稿を続けているが、実際の来店客数の増加につながっていると手ごたえを感じている。

ゲストハウスとのコラボで外国人客を呼び込む

さらに現在取り組んでいるのは、今年2月にオープンしたゲストハウス木雲（もくもく）との共同による外国人客の取り込みだ。木雲は森川さんの弟が経営する若者向けの宿泊施設。二段ベッドのドミトリーが中心で、1泊3300円からの低価格に、梅田から電車で10分の好立地が長期滞在の外国人客を惹きつける可能性は高い。土地建物は森川商事の所有で、築60年の三軒長屋を兄弟と有志の仲間が改築。昭和のレトロな香りがただよう日本人にも魅力の宿だ。「宿泊者は銭湯に無料で入り放題」が木雲の訴求ポイントのひとつ。昭和湯としての営業目標は宿泊者が毎日、10名使ってくれることであるが、森川さん個人としては銭湯文化を伝えることも重要な目標である。2月には早速、約10名の中国人観光客が長期滞在（8泊）したが、

その間、1名あたり4～5回は銭湯を利用したという。

一方で新しい課題も出てきた。「常連のお客さんが持ち込んだ石鹸を勝手に使ってしまったり、シャワーを立って使ったり。また、湯船に下着やスリッパをはいたまま入ろうとしたり、文化の違いからくるトラブルはありますね」

銭湯のマナーを知らないことによる外国人客のトラブルなどが、常連客離れにつながらないように、今後はさらに銭湯の入浴マナーの告知を徹底することを考えている。

また、木雲の隣にはコミュニティキッチン（宿泊客が自由に使える台所とダイニング）も誕生した。

「商店街でお惣菜や材料を買って持ち込んで、ここで料理をしてもらえたらいいなと思っています。世界中の若者、地域の人たちの賑やかな交流の場となったらうれしいですね」

銭湯文化の輸出に向けて

「銭湯に浸って、商店街で買ったコロッケ片手にビールを1杯。お年寄りや地域の人たちと、身振り手振りの会話もはずむ」そんな銭湯文化

と下町情緒を、訪れた外国人が世界に発信してくれることを森川さんは期待している。また、銭湯が海外で話題となることで、日本の若者たちの銭湯に対する興味が高まるのではないかと考えている。

● Profile

森川商事株式会社

取締役 森川 晃夫（もりかわ てるお）

所在地 大阪府大阪市東淀川区淡路4-33-12

創業 1928年

従業員数 12人（うちパート・アルバイト8人）



取締役 森川 晃夫さん